

報告

地域医療に関わる 地域別意見交換会（4）

千歳市

医療政策等検討委員会で7カ所の意見を検討

常任理事・医療政策部長 直江 寿一郎

医療政策部の平成20年度の新規事業として、「地域医療に関わる地域別意見交換会」を当初の予定より1カ所追加し、全道7カ所で開催した。

千歳市は救急医療が懸案事項であると聞いており、当会からは、長瀬会長や医療政策部所管の役員とともに救急医療部長である目黒常任理事が同行し、医療政策部からの説明に加え、「道内各地域への救急医療体制への取り組み」について説明した。

7カ所終了した後、これを受けて開催した第2回医療政策等検討委員会では、委員から近隣医師会も含めた連携体制の推進などの提案がなされ、地域医療について住民とともに話し合うことの重要性などについて意見交換した。

また、レセプトオンライン請求完全義務化が医療機関の負担を増大させるとして、反対の姿勢で臨むことを確認した。

【千歳市】

平成21年2月19日（木）午後6時30分からANAクラウンプラザホテル千歳で開催した。出席者は24名であった。

長瀬会長が、「新医師臨床研修制度の見直し、医学部定員増など行われるが、効果が出るのは10年後。それまで工夫して凌がなければならない」と挨拶。



千歳市の模様

尾谷千歳医師会長が、「当会の状況を説明したい。それをもとに話し合っていたきたい」と、宮脇恵庭市医師会長が、「日頃考えていることなど、忌憚のない意見を出していただきたい」と述べられた。

札幌市医師会からは鈴木理事（医療政策等検討委員会委員）が出席された。

長澤千歳医師会理事（医療政策等検討委員会委員）が座長を務め、意見交換した。出席者からは、「循環器科の引き揚げで対応に苦慮」「空港事故や自然災害には広域的対応が必要」「救急医療に当る医師が不足。日医や道医からも協力を働きかけて欲しい」「救急医療や周産期医療で近隣地域が連携できないか」などの意見が出された。

◎第2回医療政策等検討委員会

2月28日（土）午後4時から北海道医師会館で開催した。

長瀬会長の挨拶に続き、宮本副会長が「緊急臨時的医師派遣事業」の1年間の事業状況を、小職が、日医が発表した「グランドデザイン2009」について従来との変更点を説明した。

その後帯広市を皮切りに、昨年9月から各地で開催した意見交換会について、各委員に感想を求めた。委員からは逼迫した状況に「ここまでひどいとは…」と嘆息する発言があり、その後の対応策として、医師の退職により診療体制を見直すことになった事例や、循環器科が患者を受け入れなくなったため、患者自身が電話して近隣の病院に掛かることになったことなどの報告がなされ、二次救急医療を担う医師を疲弊させないために、電話相談やウォークイン患者の一次救急への振り分け、患者のトリアージなどの効果について意見交換した。



即効性のある対策は、正直なところ見出せないが、まず、地域住民を啓発し、コンビニ受診や安易な救急車の利用を自粛してもらい、また、地域住民フォーラム開催などを支援し、地域医療のあり方について、住民自ら考えていく方向をめざすことであろうと思われる。

医療政策等検討委員会委員をはじめ、意見交換会の運営にご協力をいただいた地元および関係医師会の皆様に、改めてお礼申し上げます。



医療政策等検討委員会の模様